

FD担当者のためのFD企画講座 ＜事前配付資料＞



徳島大学 高等教育研究センター
吉田 博・塩川奈々美
愛媛大学 教育企画室
仲道雅樹・上月翔太

セッションの到達目標



1. FDが求められる背景・政策・取組について説明できる。
2. FDを企画する際の順序や留意点を説明することができる。
3. FDの企画立案ができる。



セッションのタイムライン

※時間はあくまで目安です。適宜状況に応じて変更を行います。

- | | | |
|------------------|--------------------------------------|--------------|
| ① 9:30-9:50 | オリエンテーション | 到達目標1,2 |
| ② 9:50-10:30 | FDの企画を理解する＜講義＞ | |
| ③ 10:30-10:50 | FD運営のtips・事例＜講義＞
※質疑応答&小休憩(10分程度) | |
| ④ 11:00-11:30 | FDニーズの把握＜ワーク＞ | 以降、
到達目標3 |
| 昼休み(11:30-12:30) | | |
| ⑤ 12:30-12:50 | FDプログラムの立案＜個人ワーク;ブレイクアウト＞ | |
| ⑥ 12:50-13:40 | FDプログラムの共有＜グループワーク;ブレイクアウト＞ | |
| ⑦ 13:40-14:00 | 全体共有・ブラッシュアップ | |
| ⑧ 14:00-14:20 | 振り返り＜グループワーク;ブレイクアウト＞ | |

セッションで心がけてほしいこと

- ◆ **リラックス**して参加してください。
- ◆ アイデアをたくさん紹介します。
自分のFD業務をイメージしながら
使えそうなアイデアを見つけてください。
- ◆ **参加者同士の情報共有を通しての気づきも**
大切にしてください。
- ◆ 気になったことは、その場で
質問orつぶやきをしてください!!



気になったことはすぐ投稿!!

セッションに関する質問やコメント (2022.8.24)

自分の投稿 他者の投稿 人気順

本セミナーに関する質問やコメントなど、気になったことを投稿してください (匿名で投稿できます)

ここに文字を入力してください

匿名で送信できます

名前 (任意)

送信

<https://app.one.learnwiz.jp/ja/topic/37549221?pwd=804661>

他者の投稿を見て
「いいね」をつけます

自分の投稿 他者の投稿
他の人にも紹介したい投稿に「いいね」をつけてください



オリエンテーション

- ✓ 講師自己紹介
- ✓ 本セッションで学びたいこと・期待すること



講師自己紹介

7

上月翔太 (こうづきしょうた)



- ・愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室特任助教
- ・博士前期課程修了後、民間企業の勤務、学振特別研究員(DC2)、大阪大学大学院文学研究科芸術学講座助教を経て2020年から現職
- ・高等教育論(カリキュラム編成、大学教育と倫理、人文学教育、芸術大学)
- ・文芸学(ラテン語叙事詩史、古代文学、古典語、芸術理論)
- ・kozuki.shota.vc@ehime-u.ac.jp

講師自己紹介

8

仲道雅輝 (なかみちまさき)



- ・愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室副室長・准教授
- ・熊本大学大学院社会文化科学研究科教授システム学専攻・博士前期・後期課程修了
- ・日本福祉大学の事務職員を経て、2011年から現職(大学職員:17年、大学教員:12年)
- ・教育工学、インストラクショナル・デザイン(教育設計・人材開発)
- ・FD,SD,学生能力開発, 広報室など
- ・nakamichi.masaki.me@ehime-u.ac.jp

塩川 奈々美 (しおかわ ななみ)

高等教育研究センター教育の質保証支援室
shiokawan@tokushima-u.ac.jp



➤ 略歴

- 2016.3 徳島大学大学院総合科学教育部修了
- 2019.3 徳島大学大学院総合科学教育部
博士後期課程(単位取得満期退学)
- 2018.5- 徳島大学高等教育研究センター
教育改革推進部門・特任助教を経て(現職)

➤ 担当業務

- 教学IRに関する企画・研究・開発
- 徳島大学 全学FD推進プログラムの企画・運営・講師
- 教養教育科目「ことばと社会」などを担当
- ピア・サポートを行うサークルの指導教員
- SPODフォーラム「テキストマイニング入門」を担当



吉田 博 (よしだ ひろし)

高等教育研究センター 教育改革推進部門
hiroshi-yoshida@tokushima-u.ac.jp



➤ 略歴

- 2006.3 愛媛大学大学院理工学研究科修了
- 2006.4-2009.3 塾講師
- 2009.4- 徳島大学 現職

➤ 担当業務

- 徳島大学 全学FD推進プログラムの企画・運営・講師
- 教養教育科目「大学教育と学び方入門」など3科目を担当
- ピア・サポートを行うサークルの指導教員
- 日本高等教育開発協会(JAED)におけるFD等の開発・研究
- SPOD-FD担当者・研修講師
- 分野別FD(理工系分野)のFD開発・研究
- 大学教育研究センター等(CTL)の開発・研究
- シリーズ大学の教授法4『学習評価』(分担執筆)など



本セッションに期待すること

No	氏名(所属)
FD担当者としての立場	
自組織のFDの取組	
タイトル・概要・特徴 等	成果・課題
事前課題として、 可能な限りご記入をお願いいたします。	
本セッションで学びたいこと・期待すること	

<https://jamboard.google.com/d/1ppn219A8yKHIdgnVW6HJfKuWWQeOIrwww7nxngOXcAc/edit?usp=sharing>

気になったことはすぐ投稿!!

セッションに関する質問やコメント (2022.8.24)

自分の投稿 他者の投稿 人気順

本セミナーに関する質問やコメントなど、気になったことを投稿してください(匿名で投稿できます)

ここに文字を入力してください

匿名で送信できます

名前(任意)

送信

**他者の投稿を見て
「いいね」をつけます**

他の人にも紹介したい投稿に「いいね」をつけてください



<https://app.one.learnwiz.jp/ja/to pic/37549221?pwd=804661>

FDの企画を理解する



FDとは何か

- Faculty Development
- 「大学は、当該大学の授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする」(大学設置基準第25条の3)
- 実際には、研究、管理運営、社会関与に関するFDも行われている

FDの分類

- レベルによる分類
 - ミクロレベル(授業・教授法)
 - ミドルレベル(カリキュラム)
 - マクロレベル(制度・規則・組織)
- 実施時期による分類
 - Pre FD(入職前期)
 - Initial FD(入職直後／仮雇用期)
 - Continuing FD(生涯職業期)
- 方法による分類
 - OJT
 - Off-JT
 - 自己啓発

レベル	具体的な活動内容
授業・教授法 (ミクロレベル)	講演会・ワークショップ(例:新任教員研修、シラバス作成法、アクティブラーニングを促す教育技法、多人数講義法、学習評価法)、公開授業、授業参観、同僚評価(ピア・レビュー)、チーム・ティーチング、授業コンサルテーション、eラーニング、教材・教科書作成、論文執筆、学会発表、教育業績記録作成、メンタリング
カリキュラム (ミドルレベル)	講演会・ワークショップ、各部局における委員会やワーキンググループでの作業(例:3つのポリシーの策定・一貫性構築の取組み、カリキュラム改訂、教育系外部資金獲得のための申請書の作成)、他大学の視察
制度・規則・組織 (マクロレベル)	講演会・ワークショップ、全学的な委員会やワーキンググループでの作業(例:教員表彰制度導入、GPA・キャップ制導入、学期制改革、学生からの意見聴取、授業アンケート改革)、他大学の視察

FD ≠ 集合研修

- 集合研修(ワークショップ)
- 研究会
- 授業公開・授業見学
- 授業評価アンケート
- 個々の教員支援(コンサルテーション、授業録画サービス、メンタリング)
- eラーニング教材の視聴
- FD教材の開発と活用
- 自己啓発支援(研修支援、サバティカル)

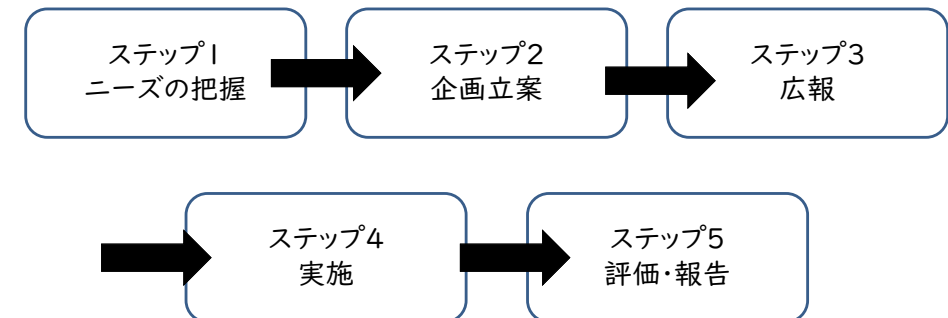
FDの意義

- FDの意義
 - 教育の内部質保証
 - 大学教員のキャリア開発
 - 組織からの高い期待
 - 学生に対する教育の責任の一環 など
- 組織風土やおかれている状況によって伝わりやすい意義は異なる

組織におけるFDの位置づけ

- 組織ごとにFDの目的、定義、位置づけ、内容等が定められている
 - 建学の理念や教育の目的など、教育上の基本方針との対応もみられる
- 例)愛媛大学
 - 教育・学習効果を最大限に高めることを目指した ①授業・教授法の改善(ミクロ・レベル) ②カリキュラムの改善(ミドル・レベル) ③組織の整備・改革(マクロ・レベル)への組織的な取組

FDプログラムの企画の手順



課題やニーズの把握

- 待っているだけでは分からない
- 2つのアプローチ
 - 大学が期待する教員像から課題やニーズを明確にする
 - 現場から具体的な課題やニーズを把握する
- 把握に活用できる情報
 - アンケートやインタビュー
 - 学生相談の相談内容
 - 自大学の目標、計画
 - 他大学の動向や高等教育関連政策
 - これまで実施したFDの中から課題やニーズを把握することもできる

目的と目標の設定

- 目的
 - プログラムの存在意義
 - 「なぜこのプログラムが必要なのか」
- 目標
 - プログラムを終えた参加者がどのように変化しているか
 - 参加者を主語にする
 - 参加者の行動で記す
- 設定が難しい場合は、ニーズや課題とプログラムが対応していない可能性も
 - 課題やニーズにはFDプログラムで解決しきれないものもある

実施者の選定

- FDプログラムを誰が実施するのか？
 - 企画者＝実施者、企画者≠実施者のいずれもある
 - 実施者：講師、メンター、ファシリテーター、話題提供者、事例紹介者 など
- 目的や目標にそった人選
 - 学内からの人選
 - ニーズや課題を十分に理解している
 - 学内の事情に通じている
 - 学外からの人選
 - 広い知見を提供できる
 - 学外者だからこそ伝えられる内容がある

実施方法の決定

- 企画書としてまとめる
- 6W2Hで整理する
 - Why(目的)、Who(誰が)、Whom(誰に)、What(何を)、When(いつ)、Where(どこで)、How(どのように)、How much(いくら費やして)
- 各種制約条件への配慮
 - 参加しやすい実施時期
 - 物理的制約(時間、教室など)
 - 実施者の力量
- 作成の過程で目標との対応を意識する

参加者への周知や広報

- 参加者がいないと企画しても意味がない
- 参加必須のプログラムでも周知や広報で、参加者の意欲を高められる
- 広報活動
 - 目を引くタイトル
 - 参加のメリットを打ち出す
 - 過去の参加者の声を紹介する
 - 定員を示す など
- 個別の声かけ
 - 個人的に誘う
 - 学部長や学科主任から教員にメールを送ってもらう など

FD運営のtips

- ① 参加者募集
- ② 雰囲気作り
- ③ 当日の運営



①参加者募集

案内・声かけ

- チラシ・ポスターの作成・工夫
 - キャッチコピー・概要・何が得られるか
 - 学内にチラシを設置する(各学部の窓口など)
- メール案内の活用(学内一斉メール・リマインドメール・個別メールなど)
- HPや電子掲示板に情報を掲載
 - Webによる参加申込の受付(Microsoft FormsやGoogleフォームの活用)
- 学部に出向く(学部の教授会、FD委員会)
- 関係者全員で協力して声かけ
 - キーマンの一本釣り
 - 日頃からの信頼関係構築も重要

②雰囲気作り

開催時期・内容・時間帯の工夫

- 内容とニーズの連動
 - 授業設計 : 学期が始まる前
 - シラバスの書き方 : シラバス登録前の月
 - 初年次教育プログラムに関するFD : 年開け～年度末頃
- 業務の落ち着く夕方&1時間程度
- 教授会の後で数十分程度の時間をもらう
- 同じ内容を複数回実施する
 - 各キャンパスで実施
 - 別の曜日・時間帯を設定して実施
 - 対面・オンライン形式で実施

②雰囲気作り

会場の工夫

- アクティブ・ラーニングスペースの利用
- 学外施設の利用(ホテル・駅前の会議室・サテライトオフィスなど)
 - ・ 座席の工夫により交流やワークがしやすい
 - ・ 普段の教室とは異なる空間で研修の雰囲気を演出
 - ・ アクセスの良さ・利便性・収容人数を考慮
- 成果物・FDポスターなどを教室に掲示する
- オンライン研修
 - ・ メイン画面に案内文を表示(カメラ・マイクの利用・飲食などグラウンドルールの共有)
 - ・ リラックスした雰囲気の演出(音楽をかける、背景画像の活用など)

③当日の運営

内容の工夫

- アイスブレイクを行う
- 参加者との双方向性を確保する
- 講義とワークを交互に行う
- 事前に質問や意見を募集し、当日対応する
- 勝負・ゲーム性を取り入れる
- 賞品(プレゼント)を用意する(お菓子、本など)
- 表彰する(参加証、修了証など)
- 講師を工夫する
 - ・ 名の知れた専門家、身近な同僚教員

③当日の運営

アメニティの工夫

- お菓子・飲み物を用意する
 - － 午後はチョコレート多め、コーヒーはドリッブを用意するなど
- 食事・飲み物を提供する
- ランチセッションにする(食事の持ち込み可)

その他

- FD終了後に情報交換会を実施する
- 外部講師の送迎、歓迎会
- スタッフはお揃いの〇〇(Tシャツ、名札など)
- 制度を整える(対象者の参加義務・業績評価など)

FDの事例

Case Study



事例紹介

1. 授業参観・授業研究会
2. 授業コンサルテーション(SCOT)
3. ティーチング・ポートフォリオ
4. 大学教育カンファレンスin徳島
5. 大学教育研究ジャーナル
6. Edutokuメーリングリスト
7. Teaching Life(教育に対する意識調査)
8. IRを活用したポスター作成
9. 自己学習用教材の紹介
10. 学生の学習を促す事例カード
11. 教育について考え提案する学生・教職員専門委員会
12. アーカイブ動画・WEB動画サイト
13. リーフレットの作成・配付
14. 気軽に参加できるオンラインセミナー

授業参観・研究会

オンライン
授業にも
対応！

目的：授業の把握や改善、参加者間で授業技術の共有

手順：1.対象者は対象授業のシラバス、授業計画書を作成
2.授業参観（ビデオ撮影・学生アンケート）
3.授業研究会＜60分程度＞
（ビデオ視聴・アンケート結果の確認・自由討論）

運営：高等教育研究センターが
コーディネートし、全学公開する



授業研究会の様子



学内の案内チラシ

授業コンサルテーション (SCOT)

目的：学生視点からの授業改善を行う。

概要：Student Consulting On Teachingの略

研修を修了した学生が、SCOT学生として依頼のあった教員の授業に参加する。SCOT学生は一般の学生には気づかれないように授業を観察し、受講者視点から気づいたことを記録する。授業終了後に記録した内容担当教員にフィードバックする。

事例：帝京大学

<https://ctl.teikyo.jp/fd/scot/>（2022.8.17参照）

芝浦工業大学

<http://edudvp.shibaura-it.ac.jp/scot-leaflet/>（2022.8.17参照）

ティーチング・ポートフォリオ

目的：日常的な教育活動を振り返り、根拠資料による裏付けのもと教育業績を整理する。ティーチング・ポートフォリオの作成を通して、教育改善や目標設定を行う。

意義：自分自身の教育理念を明確にすることができる。
作成のための振り返りが教育改善に繋がる。
教員同士で教育について話し合うことができる。
キャリアアップのための書類作成の対策に活用できる。
教育業績の正当な評価に繋げることができる。

作成ワークショップ：3日間のスケジュールで開催
3月or9月

大学教育カンファレンスin徳島

目的：高等教育における最新の動向や、我が国における他大学の取組を共有する。また、教育活動における実践研究を促進し、教育実践研究の成果を共有する。

内容：基調講演、ワークショップ、参加型ディスカッション、個人研究発表、ポスター発表
※2020年度以降オンライン開催に対応

概要：年末or年始に実施
(授業が開講されていない時期)
研究発表募集8月~10月末
発表抄録の作成



チラシ・ポスター

大学教育カンファレンスin徳島



口頭発表



ワークショップ



参加型ディスカッション



情報交換会

大学教育研究ジャーナル

目的：教育活動における実践研究を促進し、業績として残すことができるようにする。また、その実践研究を共有する。

概要：毎年3月発行
毎年11月原稿締切
査読あり(すべてのカテゴリ)
カテゴリは以下の4つ
「研究論文」・「総説」・「資料」・「報告」
2004年より刊行



Edutokuメーリングリスト

目的：教育に関するセミナーのお知らせ、アーカイブ動画サイトや配付資料の案内のほか、授業実践に使えるツールやTipsのお知らせなど、高等教育に関わるお得な情報を配信。

対象：徳島大学、SPOD加盟校の教職員・大学院生・学生

配信：毎週金曜日

<https://www.tokushima-u.ac.jp/highedu/reform/fd/docs/26689.html>



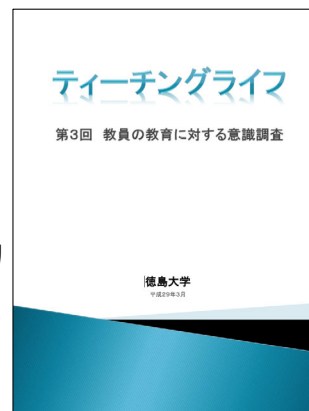
Teachig Life（教育に対する意識調査）

目的： 教員の教育に対する意識調査

概要： 4年ごとに徳島大学の全教員を対象にして、質問紙調査を行う。

設問： 授業・研究指導・留学生指導数
教育活動の阻害要因
意識して育成しようとしている能力
授業における取組
FDへの参加・取組・ニーズ

報告： 学部ごとにデータを集計し、各学部のFD委員が現状と課題をまとめ、報告書を作成する。総合教育センター等では、ニーズをもとにしてFDの計画を行う。



教員の教育に対する意識調査報告書（ティーチングライフ）

徳島大学では、教員の教育に対する意識等の把握し、今後の教育改革並びに教育の質向上のための基礎資料を得ることを目的として、教員の教育に対する意識調査を4年に1回実施しています。

第3回教員の教育に対する意識調査報告書

ティーチングライフ

第3回教員の教育に対する意識調査報告書（平成29年3月）

第3回 教員の教育に対する意識調査



第2回教員の教育に対する意識調査報告書

ティーチングライフ

第2回教員の教育に対する意識調査報告書（平成26年3月）

第2回 教員の教育に対する意識調査



第1回教員の教育に対する意識調査報告書

ティーチングライフ

第1回教員の教育に対する意識調査報告書（平成21年3月）

第1回 教員の教育に対する意識調査

過去3回の報告書を掲載

IRを活用したポスターの作成

『データから考える愛大授業改善』（愛媛大学）

『とくぽんと考える徳島大学』（徳島大学）

目的： 教学データを活用したポスターによる自己啓発支援

取り組み：

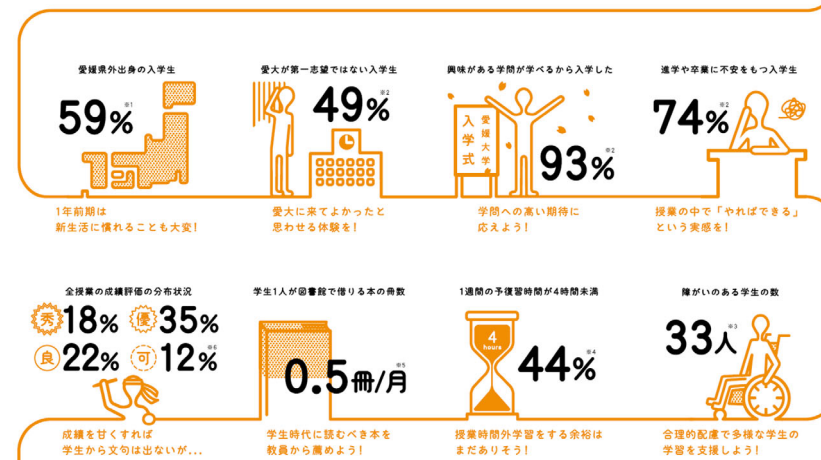
- 卒業予定者アンケート、教務データ、就職データ等を用いて、授業改善に資するデータに一言メッセージを添えてポスターを作成
- 各種研修で配付
- 学部・学部FD委員等に配布

IRを活用したポスターの作成

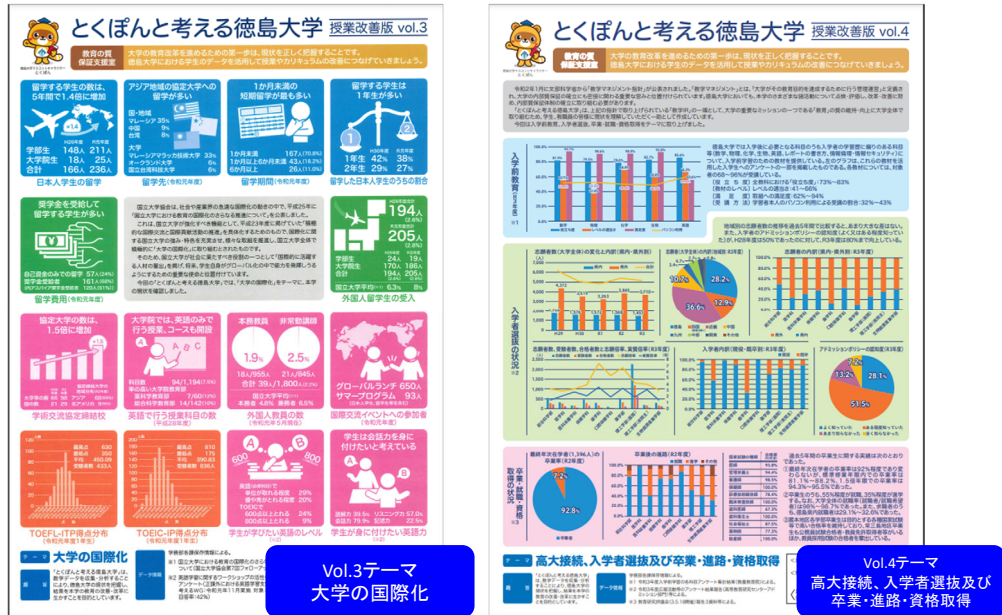
データから考える愛大授業改善

学生中心の大学を目指した教育改革を進めるための第一歩は、現状を正しく把握することです。

愛媛大学における入学から卒業までのデータを活用して、授業やカリキュラムの改善につなげていきたいと思います。



IRを活用したポスターの作成



自己学習用書籍の紹介

『大学教職員のための48冊』

・目的

自己学習用書籍の紹介による自己啓発支援

・取り組み

- 推薦図書に掲載したパンフレットの作成
- 各種研修での配付
- 掲載書籍の貸し出し
- 生協と図書館での特設コーナーの設置

自己学習用教材の紹介



学生の学習を促進する事例カード

目的：授業の中で活用できる具体的、かつ身近な事例を共有し、教員がいつでも確認できるようにする。

◆反転授業（知識定着のための課題演習）

目的	◆Key Words < 知識定着 予習促進 > 基礎知識を確実に習得するために、講義はいつでも何回でも視聴できるようにeラーニング化しており、授業時間内では演習課題や発展的な内容を教員、学生の理解を促進する。
分野	工学系（他分野でも応用可能）
クラスサイズ	大（70名以上）
所要時間	学生が事前にビデオ教材で講義を受けているという前提で、90分授業をデザインする。
学生の事前学習	講義ビデオの視聴：約20～25分、演習課題の解：約10分
評価方法	なし
準備物	講義ビデオ、小テストの印刷物など、授業時間内での使用に必要。撮影、編集やMoodleへの掲載はeラーニングサポート室の協力で行う。実習機も必要。
実施のポイント	◆学生がビデオ教材で講義部分を視聴してから授業に臨むため、授業内では知識を定着させるための演習課題を準備することが必要。そのため、演習課題を多くしたり、丁寧に解説したりすることが必要。 ◆学生は、講義部分だけでなく、何回でも自分のペースに合わせて受け取ることができる。
メリット	□講義を聞いていないため、授業時間内の学習を自由に設計することができる。 □学生は重要な内容を何度も確認することができる。学習の理解に繋がる。
デメリット	◆講義ビデオを視聴するための準備が手配から必要である（今回の事例では前年度の授業ビデオを活用）。 ◆講義ビデオの制作には時間とコストがかかる（今回の事例では前年度の授業ビデオを活用）。
学生の反応	受講生が、次のような意見が寄せられた。 ビデオ教材は、いつでも見返すことができるため、試験勉強にも役に立つ。 □毎日の授業の冒頭で、課題演習（9分25秒）を行うため、授業に参加する気持ちの切り替えができる。

カード表面

◆反転授業（知識定着のための課題演習）

目的	講義内容を20～25分程度のビデオに録画し、moodleを用いて履修学生に提供する。学生は、事前に講義ビデオを視聴し、演習課題を解いておくことで、授業外学習を行ってから授業に臨む。授業時間内では演習課題や発展的な内容を教員、学生の理解を促進する。学生は、重要な部分を繰り返し学習することで内容をより理解し、知識の定着に繋がる。今回の事例では、授業の冒頭で小テスト（課題演習）を5分、その解説を30分実施した。
分野	工学系（他分野でも応用可能）
クラスサイズ	大（70名以上）
所要時間	学生が事前にビデオ教材で講義を受けているという前提で、90分授業をデザインする。
学生の事前学習	講義ビデオの視聴：約20～25分、演習課題の解：約10分
評価方法	なし
準備物	講義ビデオ、小テストの印刷物など、授業時間内での使用に必要。撮影、編集やMoodleへの掲載はeラーニングサポート室の協力で行う。実習機も必要。
実施のポイント	◆学生がビデオ教材で講義部分を視聴してから授業に臨むため、授業内では知識を定着させるための演習課題を準備することが必要。そのため、演習課題を多くしたり、丁寧に解説したりすることが必要。 ◆学生は、講義部分だけでなく、何回でも自分のペースに合わせて受け取ることができる。
メリット	□講義を聞いていないため、授業時間内の学習を自由に設計することができる。 □学生は重要な内容を何度も確認することができる。学習の理解に繋がる。
デメリット	◆講義ビデオを視聴するための準備が手配から必要である（今回の事例では前年度の授業ビデオを活用）。 ◆講義ビデオの制作には時間とコストがかかる（今回の事例では前年度の授業ビデオを活用）。
学生の反応	受講生が、次のような意見が寄せられた。 ビデオ教材は、いつでも見返すことができるため、試験勉強にも役に立つ。 □毎日の授業の冒頭で、課題演習（9分25秒）を行うため、授業に参加する気持ちの切り替えができる。

カード裏面

◆意図・目的 ◆分野 ◆クラスサイズ ◆所要時間などで分類している。

学生の学習を促進する授業事例カード

教育改革推進部門

意図・クラスサイズ・時間で検索

専門分野で検索

カードの検索の仕方

医療系

教育改革推進部門

教育改革推進部門について

教育改革推進部門活動予定・報告

全学FD推進プログラム

大学教育再生加速プログラム（AP）

教育改革事業

カリキュラムの概要

SIH会場

関連リンク

徳島大学高等教育
ミーリングリスト
“Edutoku”

学生の学習を促進する
授業事例カード

学生の学習を促進する
授業事例カード

授業時間外学修の増加と
自学習を促すための
授業ガイドライン
（令和元年12月）

◆具体的な事例をもとにグループで話し合う 事例No.MES-90

目的 教育的意図	●Key Words＜ 理解促進 積極的思考促進 ＞ 先行科目（今回の事例では「看護概論1」）で学習した知識を、実際の事例をもとに適用するスキルの習得や理解を促進する。学生同士で話し合いながら事例について考えることで、多角的視点から課題をとらえ、深い思考を促進する。
分野	医療系、教育系
クラスサイズ	小（30名以下）
所要時間	60分×2回（解説のための講義を含む）
学生の事前学習	2回の授業にわたるグループでの話し合いを行うため、1回目の授業における話し合いの中で必要となる知識や情報は、2回目の授業までの間に、授業外で学習しておく必要がある。
評価方法	学生個人がグループワークを用いて自己評価を行い、それをもとにして教員が評価を行う。 コースを通して両側のグループワークを4回実施し、4回の評価を総合して授業の成績評価を行う。
準備物	●グループごとの具体的な事例（指導データ）※今回の事例では2つのグループで異なる事例を用いている。 ●ワークシート（A3サイズ）※課題、目標、学習目標、学習成果、学習成果の記入用紙
実施のポイント	●実際の指導データなど、具体的な事例を活用することで、学生が「実際の業務現場をイメージできる」ようになる。 ●ワークシートを活用し、昨年度の学生が作成した成果物を示すことで、グループでの話し合いの進め方を示す。
メリット	①学生同士の話し合いが促進される。 ②学生は自分の考えだけでなく他者の視点から学ぶことができる。
デメリット	●具体的な事例を準備する、ワークシートを作成するなどの準備がかかる。 ●話し合いが活性化しないグループの存在、ファシリテーターを務める教員の力量が求められることがある。
学生の反応	自分の考えを他者と共有し、ワークシートにまとめることで、議論が深まっていた。また、実際の業務現場に関する指導データなどを活用しているため、学生は自分自身が取り組む課題として捉えている様子であった。

小・中・高等学校の看護教諭になるための学生を対象とした授業において、スクールヘルスアシスタントについて、学習した知識を、実際の具体的な事例において活用し、グループで話し合いながら、課題抽出、その対策を検討する。

★具体的な手順は次の通りである（60分×2回で実施）

1. 学生を4～5名程度のグループに分け、1つのグループを1つの学校とする。
2. 各グループに具体的な事例（児童生徒の事例、健康状態などの指導データ）を示す。
※今回の事例では、5つのグループにそれぞれ異なる事例を示している。
3. 各グループでワークシートをもとに、①課題、②背景・原因、③目標、④対策＜教職員・児童生徒・保護者への手段や内容＞を話し合い、まとめる。
※話し合いの途中で60分の授業が終了する。学生は次の授業までに、必要な情報や課題など、次の授業で話し合いの続きを行う。
4. 対策をクラスで発表するための成果物（保護紙、保護紙より）を作成する。



グループワークの説明

学生同士の話し合いの様子

教育について考え提案する学生・教職員専門委員会

目的： 学生の意見を教育改革・教育改善に反映させる

組織： 徳島大学総合教育センター運営委員会の下に設置され、教育改革推進部門長が委員長を務める。
学生21名、教職員16名（2017年8月3日現在）

活動： テーマごとにワーキンググループを、問題意識や課題の整理、提案の作成、提案の根拠資料などをまとめる。

提案から改善への流れ：

各WGで作成した提案は、委員会の審議を経て、大学教育委員会、教育担当理事に提案され、具体的な改善に向けた検討が開始される。

教育について考え提案する学生・教職員専門委員会

WG：現在活動中のWG（2017年8月3日現在）

- 学生の自助自立を促すために学びやすい環境を追求するWG
- 授業評価アンケートの実質化に関するWG
- 授業デザイン発信WG

実績：

2016年6月に「受講者視点からの授業の魅力を共有できる仕組み構築」に関する提案をまとめ、教育担当理事に報告する。

教育担当理事は、提案を受け、そのうちの1つ「授業紹介ミニ動画（PV）の作成」について、中期計画・中期目標に関連内容を盛り込む。（図書館の授業サポートナビの充実）

アーカイブ動画・WEB動画サイト

目的：能力開発支援の一環として、FDコンテンツや最新情報を動画形式で情報発信。

<https://web.opar.ehime-u.ac.jp/movie/>



アーカイブ動画・WEB動画サイト

「授業について考えるランチセミナー」

2021年度アーカイブ

11月「オンラインでのアクティブラーニング」

各月のタイトルから、アーカイブ動画・配布資料

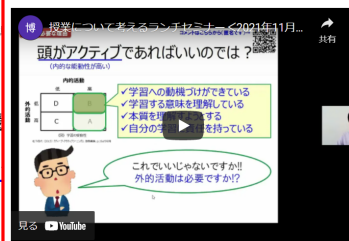
4月「**テーマごとに動画と配付資料を掲載**

5月「オンライン環境での学習評価

6月「学生の主体性を促す学習支援

国内の学習支援の現状や実践事例を紹介すると共に

ネット授業でも可能なアクティブラーニングの技法やツールを紹介します。



アーカイブ動画・WEB動画サイト



オンライン授業で アクティブ・ラーニングを 成功させるTips

このリーフレットでは、オンライン授業においてアクティブ・ラーニングを成功させるためのTipsをご紹介します。ここに取り上げている機能は、同僚授業ツール（例えば、Zoom、Teams など）の基本機能を使用したものです。
Tips を活用して、オンライン授業でアクティブ・ラーニングを実現してみませんか？

作成までの背景

令和2年春に、新型コロナウイルス感染症は対策のために、急速オンライン授業が始まりました。これまで、大学教員において取り組んできたアクティブ・ラーニングによる授業実践の取組を継続させていくために、共同研究者が集まり、ダイナミック・ヒューマン・キビタル社の中村文子氏による「オンライン研修のための講師養成講座」を受講。その後、学んだ内容をもとに自己の授業等においてTips を実践し、検証を行いました。そして、オンライン授業において実践できるアクティブ・ラーニングを成功させるTips を開発しました。

本リーフレットは、平成30年度文部科学省教育技術人材育成費助成事業「ダイバーシティ研修実践型オンラインサポート（東山）」の助成を受けて作成されたものです。

研究代表者	共同研究員
杉田 伸一 (高知大学)	中村 伸一・竹中 真一 (愛媛大学) 吉田 博・堀川 奈々 (徳島大学) 堀川 伸一 (高知大学)
参加機関 中央教育振興会「アクティブ・ラーニング（シリーズ）大学出版部、2015	
刊行 2021年2月22日	
デザイン SASAKI GOTO SCIENCE	
	本リーフレットに関する問い合わせ先 高知大学 大学教育創造センター 杉田 伸一 〒783-8502 高知市南河内 2-1-1 Mail: shigen@kai.ac.jp

https://www.tokushima-u.ac.jp/fs/2/3/5/0/7/9/_/_ Tips.pdf (2022.7.26)

オンライン授業疲れを防ぐために

- オンライン授業を受けてはいるが、長時間のディスプレイ注視や音声を聴き続けることによって、授業に対する集中力が低下し、心身の健康にも影響を及ぼす可能性があります。授業中に以下のような留意点を取り入れることにより、学生におけるオンライン授業疲れの軽減を図りましょう。
- ① オンライン以外の教材を使う時間の確保
- ② 休憩時間の確保
- ③ 身体を動かすアクティビティ
- ④ 目の疲れを軽減する。遠くを見たり自然光を浴びる
- ⑤ 立ち上がる、歩く
- ⑥ 集中力を保つためのストレッチ
- ⑦ 休憩中に授業を受講

学生が安心して授業を受けるために

オンライン授業では、学生が受け取る情報の多くは、画面越しに見える教員からの情報です。下記の留意点を取り入れることにより、学生が安心して授業を受けることができるようになります。

- ① 教員が授業を楽しんでいる様子を見せるようにしましょう。
- ② 教員はビデオオン状態にする
- ③ 教員はビデオオン状態にする
- ④ 授業中に学生が質問や発言をしやすい環境を整える
- ⑤ オンライン授業の安心と信頼は、フィードバックから
- ⑥ 教員が授業を楽しんでいる様子を見せるようにしましょう。
- ⑦ 授業中に学生が質問や発言をしやすい環境を整える
- ⑧ 授業中に学生が質問や発言をしやすい環境を整える

学生が自発的に動けるように

- ① グループワークの活用
- ② グループワークの活用
- ③ グループワークの活用
- ④ グループワークの活用
- ⑤ グループワークの活用
- ⑥ グループワークの活用
- ⑦ グループワークの活用
- ⑧ グループワークの活用



オンライン授業における注意事項

「流しておくだけ聴講」を予防するために

オンライン授業では、教員が学生の受講する様子を確認することが重要です。授業中に「流しておくだけ聴講」の学生を減らすためには、授業中に以下のような工夫を行うことが有効です。

- ① 授業中に学生が質問や発言をしやすい環境を整える
- ② 授業中に学生が質問や発言をしやすい環境を整える
- ③ 授業中に学生が質問や発言をしやすい環境を整える
- ④ 授業中に学生が質問や発言をしやすい環境を整える
- ⑤ 授業中に学生が質問や発言をしやすい環境を整える
- ⑥ 授業中に学生が質問や発言をしやすい環境を整える
- ⑦ 授業中に学生が質問や発言をしやすい環境を整える
- ⑧ 授業中に学生が質問や発言をしやすい環境を整える

万が一のトラブルの時のために

オンライン授業にはトラブルがつきものです。例えば、教員側のネットワークの不安定さ、学生側のインターネットの不安定さ、学生側の端末のトラブルなど、様々なトラブルが発生する可能性があります。トラブル発生時の対応策を事前に決めておくことが重要です。

- ① ネットワークに関するトラブル
- ② ネットワークに関するトラブル
- ③ ネットワークに関するトラブル
- ④ ネットワークに関するトラブル
- ⑤ ネットワークに関するトラブル
- ⑥ ネットワークに関するトラブル
- ⑦ ネットワークに関するトラブル
- ⑧ ネットワークに関するトラブル

気軽に参加できるオンラインセミナー 授業について考えるランチセミナー

授業での実践例や教員・学生の生の声を紹介したり、参加者が感じている疑問や質問に答えたり、一緒に考えることで、**授業づくりのヒントになるティップスを参加者全員で共有する。**

日時：第2,第3木曜日 12:05～12:50

方法：Zoomを活用したオンライン

対象：SPOD加盟校の教職員・大学院生・学部学生

気軽に参加でき、
充実した情報を提供する!!



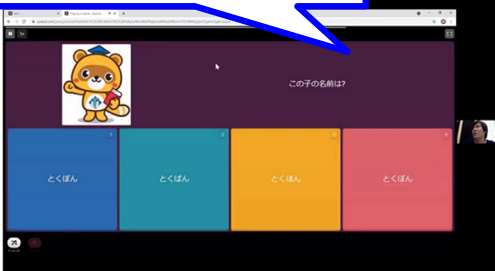
2021年度のランチセミナーの様子

講義

ワーク(webアプリ)

質的データと質的調査方法

- 質的調査の特徴(西山他2013)
- 概要
- 長所
- 短所

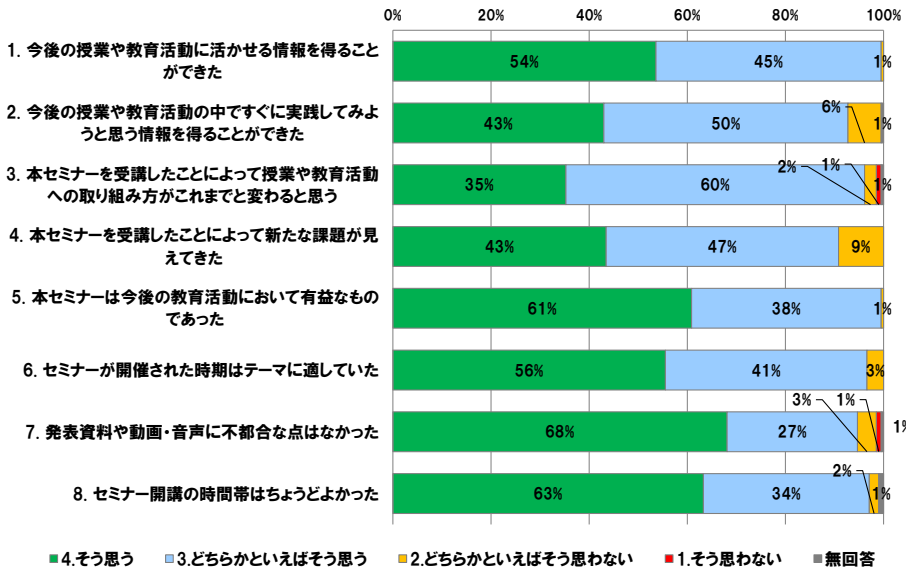


教員の話提供&議論

学生と教員の対談



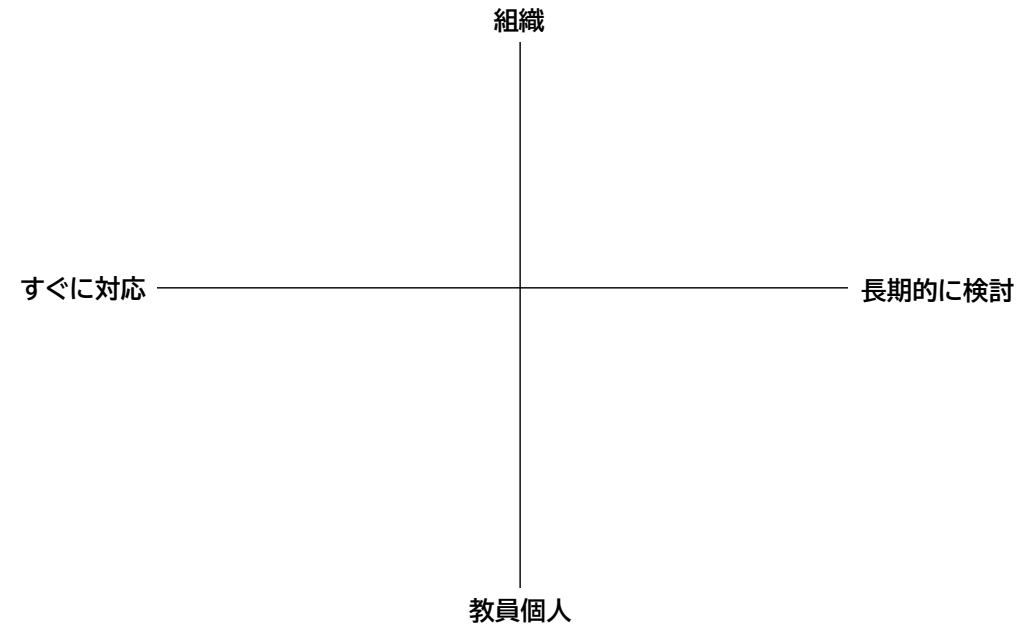
2021年度のランチセミナー参加者アンケート (n=207)



FDニーズの整理



FDニーズの整理



FDニーズの整理

①

自身の所属組織におけるFDニーズを、
思いつくかぎりポストイットに書き出してください。



②

①で書き出したニーズを、組織的か個人的な内容か、
すぐに対応可能か長期的な課題か、に応じて整理してください。

すぐに対

的に検討



ジャムボード上に
付箋を使って書き出します。

教員個人

FDプログラムの立案

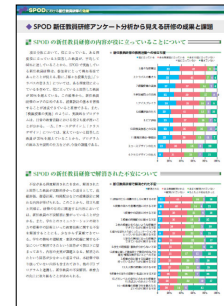


FDプログラム案の作成

- 企画名(プログラム名)
- 目的・目標
- 日時(期間)
- 対象者
- 場所
- 講師(担当者)
- 形式・方法・概要
- 参加費
- 主催・組織 など

FDニーズを参考に
して考える!!

研修以外のFDも
企画できます!!



個人ワーク(ブレイクアウトルーム)

12:50まで予定

グループ (担当者)	氏名(所属)
A (上月)	
B (仲道)	
C (塩川)	
D (吉田)	

セッション当日にお知らせします。

グループでの共有・議論

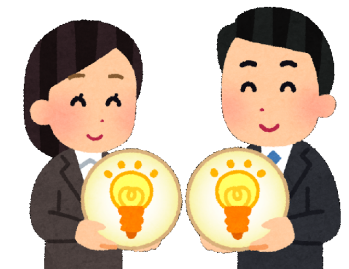
各グループ(ブレイクアウトルーム)に分かれ、
担当講師の進行のもと、**参加者が順番に企画案を共有し、議論、意見交換を通して、企画案をブラッシュアップする**

- 1人あたり10分程度
- 共有3,4分、意見交換6,7分
- 全体として予備10分

(13:40まで予定)

全体共有・振り返り

- ◆各グループの意見を共有
- ◆振り返り<各グループ>
 - 1人5分程度
 - 適宜ブラッシュアップをする
- ◆質疑応答(14:25まで)



JAED研究会 「アセスメント基準による大学教育センター等 の現状把握と担当者コミュニティづくり」

大学教育センター(CTL)のアセスメント基準を使って、参加者のみなさまの所属組織における**CTLをアセスメントし、参加者同士の議論を通して、お互いの気づきや相互支援**(アイデアや事例の共有)を行う。

1. 日時:2022年**9月12日(月)13:30~16:00**
2. 会場:オンライン(Zoom)
3. 内容詳細・参加方法:以下のサイトより確認してください
<https://www.jaedweb.org/latestevent>
4. 定員:16名(先着順)
5. 参加費:無料
6. 主催:日本高等教育開発協会(JAED)

MEMO

71

引用・主要参考文献

- ・ 愛媛大学(2006)『FDプログラムの開発・実施・評価』(FD担当者必携マニュアル第1巻)
- ・ 佐藤浩章、中井俊樹、小島佐恵子、城間祥子、杉谷祐美子編(2016)『大学のFD Q&A』玉川大学出版部
- ・ 竹中喜一、中井俊樹編(2021)『大学SD講座4 大学職員の能力開発』玉川大学出版部
- ・ 中井俊樹編(2015)『アクティブラーニング』玉川大学出版部
- ・ 中原淳(2014)『研修開発入門—会社で「教える」、競争優位を「つくる」』ダイヤモンド社

MEMO

72